

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく
臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究

研究分担者 杉山一彦・広島大学病院がん化学療法科・教授

研究協力者 成田善孝・国立がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科・科長

研究要旨（脳腫瘍の臨床データベースの現状と将来）現在本邦の脳腫瘍データベースは国立がん研究センターが行っている後方視登録The Committee of Brain Tumor Registry of Japan. Report of brain tumor registry of Japan（日本脳腫瘍登録）と日本脳腫瘍学会が行っている前方視登録Japan Neurosurgical Databaseにから抽出される脳腫瘍症例の蓄積である。前者は1975年に設立された後方視的データベースで有り、後者は脳神経外科学会会員や教育施設の経験症例を前方視的に登録するシステムである。これらのビックデータを如何に融合、補完的に運用するかが今後の課題である。

A．研究目的

The Committee of Brain Tumor Registry of Japan. Report of brain tumor registry of Japan（日本脳腫瘍登録）と Japan Neurosurgical Database を安定的に運用し、これらデータベースの運用方法を探る。

B．研究方法

The Committee of Brain Tumor Registry of Japan. Report of brain tumor registry of Japan（日本脳腫瘍登録）と Japan Neurosurgical Database の運用実態を検討し、今後の効率的な運用方法を検討する。

。（倫理面への配慮）

両データベースも個人情報の管理を徹底しており、完全匿名化でのデータである。

C．研究結果

The Committee of Brain Tumor Registry of Japan. Report of brain tumor registry of Japan（日本脳腫瘍登録）は2017年に2005年から2008年に登録された19922例（原発性脳腫瘍16722例、転移性脳腫瘍3200例）の検討を第1号として（*Neurologia medico-chirurgica*. 2017;57: supplement1）、現在、2009年以降の登録症例の検討を行っている、一方 Japan Neurosurgical Database は2018年に開始され、現在症例登録が暫時進行している状態である。

D．考察

両登録ともそれぞれが独立して遂行されており、データの相互補完、融合などは今後の問題と考えられる。

E．結論

日本における脳腫瘍のデータベースは The

Committee of Brain Tumor Registry of Japan. Report of brain tumor registry of Japan（日本脳腫瘍登録）と Japan Neurosurgical Database があるが、両データベースは独立して行われており、両データを利用した補完性、包括性を持ったデータベースの構築が求められている。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

1. 論文発表

著書

1. 特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会(脳腫瘍診療ガイドライン拡大委員会 委員長 杉山一彦、委員 成田善孝). 脳腫瘍診療ガイドライン 2019年版. 東京: 金原出版; 2019

総説

なし

原著

1. Yamasaki F, Kolakshyapati M, Takano M, Yonezawa U, Nishibuchi I, Imano N, Taguchi A, Onishi S, Amatya VJ, Takeshima Y, Nagata Y, Kurisu K, Sugiyama K. Effect of bevacizumab against cystic components of brain tumors. *Cancer Med*. 2019; 8: 6519-6527.
2. Iihara K, Tominaga T, Saito N, Suzuki M, Date I, Fujii Y, Hongo K, Houkin K, Kato A, Kato Y, Kawamata T, Kim P, Kinouchi H, Kohmura E, Kurisu K, Maruyama K, Mikuni N, Miyamoto S, Morita A, Nakase

- H, Narita Y, Nishikawa R, Nozaki K, Ogasawara K, Ohata K, Sakai N, Sakamoto H, Shiokawa Y, Sonoda Y, Takahashi JC, Ueki K, Wakabayashi T, Yamamoto T, Yoshida K, Kayama T, Arai H; Japan Neurosurgical Society. The Japan Neurosurgical Database: Overview and Results of the First-year Survey. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 2020; 60: 165-190.
3. Iihara K, Tominaga T, Saito N, Suzuki M, Date I, Fujii Y, Hongo K, Houkin K, Kato A, Kato Y, Kawamata T, Kim P, Kinouchi H, Kohmura E, Kurisu K, Maruyama K, Mikuni N, Miyamoto S, Morita A, Nakase H, Narita Y, Nishikawa R, Nozaki K, Ogasawara K, Ohata K, Sakai N, Sakamoto H, Shiokawa Y, Sonoda Y, Takahashi JC, Ueki K, Wakabayashi T, Yamamoto T, Yoshida K, Kayama T, Arai H; Japan Neurosurgical Society. J Comparison on epidemiology, tumor location, histology, and prognosis of intracranial germ cell tumors between Mayo Clinic and Japanese consortium cohorts. *Neurosurg*. 2020 Jan 31:1-11.

2. 学会発表

1. 杉山一彦. 広島県がん診療連携拠点病院におけるWHO2016神経膠腫診断体系の現状 (シンポジウム 脳腫瘍の分子チャート), 第 37 回日本脳腫瘍病理学会, 2019.6.1, 名古屋市

2. 杉山一彦. AYA 世代脳腫瘍における問題点 germinoma 長期生存者の観点から. 第 57 回日本癌治療学会学術集会 (教育シンポジウム AYA 世代がんの診断と治療). 2019.10.25: 福岡市

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし